

●Step 2：水濡れ対策は素材から

バッグもウェアも靴も元々防水のものならば雨でも安心！ とは言うものの、そういった製品の防水処理は新品やアウトドア用の本格的なものを除いては、使用しているうちにどんどん劣化してしまうものだ。特に『撥水（はっすい）』と呼ばれる処理は多くの場合効果の低下が早い。



また、わざわざ専用の装備を用意せずに、ファッション優先という場合もあるだろう。『もし、雨が降ってきて最低限のダメージで済ませる』ことを考えてみよう。

一番に注目したいのがその服やバッグ、靴の素材だ。

素材自体が水を吸いやすかったり乾きにくいものは、雨が予想される際の選択からは外すのがベターだ。

具体的な素材名を挙げるならば、防水処理されていないコットン（綿）100%のものは避けたい。

コットンは吸湿性や肌触りは良いものの、それが雨であれ汗であれ、いったん濡れてしまうと今度は非常に乾きにくく（それも着古しているほどその性質が大きい）、濡れたコットン生地は肌に張り付いて動きを妨げるだけでなく、身体の体温調整機能の働きを邪魔して結果的に体力の消耗を大きくしてしまうからだ。

逆にオススメの素材とは言えば、やはり日進月歩の化学繊維系が挙げられる。特に傘をさしてもバッグやズボンが濡れるのは防げないため、朝から雨天の場合は乾きにくいシーズや防水されていないキャンバス地のバッグは避け、ポリエステルなどの化繊が混紡された薄手のズボンやナイロンのバッグでかけよう。

万一当日が雨天でも、その時点で装備や着ていくものに困らないよう、前もって雨を予想したものを用意しておくこと！

女性向けの衣服の中には濡れると透けてしまったり、身体に張り付いてしまうものも少なくないので、着ていく服には重々注意したい。

●Step 3：完璧を求めるなら

防水スプレーは手軽な雨対策だが、その効果を十分に発揮させるには一手間かけてやる必要がある。

まず着ていく予定の衣服は全て洗濯しよう。バッグもキャンバスやナイロンなどの洗える素材であれば一度洗剤とブラシでよく洗い、さらに完全にすすいでよく乾燥させる。同様に靴も洗えるものは洗い、そうでないもの（スエードなどの革製品類）は乾いた柔らかいブラシ類でいねいに泥やホコリを落としておく。

いくら防水スプレーや素材であっても、元々穴があいていたり、生地が擦り切れていては用をなさないのて、この時点でそういった点もよく確認しておくこと。

防水スプレーのほとんどは吸い込むと有害なので、屋外の風通しの良い場所で吹き付けを行う。実際に雨に当たると、縫い目部分や、肩や肘などの擦れやすい部分から浸水することが多いので、そういった部分には重点的に吹くようにしよう。

薄く噴いては軽く乾かす工程を2、3度繰り返し、ざっと乾いたら最後に、アイロンがけの可能なものなら低温でまんべんなくアイロンをかけ、アイロンがけできないものはドライヤーの温風を当ててよく乾燥させればよい。

この工程を踏むことで撥水性がより高くなり、さらに汚れにくく、また撥水性能の低下もしにくくなるので、ぜひ試してほしい。汚れたまま上から防水スプレーだけ吹き付けても、効果は満足に発揮されないのだ。

ただし、TシャツやYシャツなど、肌に直接触れる衣服には、かぶれたりする場合もあるのでスプレーを使用してはいけない。その際は防水処理した薄い上着を1枚用意するとよい。

なお、クリーニングに出してその際に防水処理をオプションで依頼することもできるので、時間や手間を惜しむなら利用するとよいだろう。

しかし、防水スプレーはどんなに頑張っても『少々の雨なら大丈夫』というレベルでしかなく、夕立のように叩きつけるような雨や長時間雨に当たるような場合にはとてもこれだけでは抗しきれない。

最低限タオルと下着と靴下の替えは必ず用意して行こう。

なお、服が濡れてしまって着替えたいという場合はコスプレ用更衣室を無料で使用することができる（濡れた服>コスプレ衣装への着替えは有料）。

とは言え、どうしても順番待ちになってしまうため、最初から濡れない対策を講じておくのが一番だ。

バックパックを背負って行こうという向きには、バックパックごと全てすっぽり覆ってしまえる『ポンチョ』という雨具もある。これは通気性も良く、傘よりも濡れにくい上に着脱がとても楽と大変便利なアイテムだが、着ている様子がてるてるボウズのお化けにしか見えないのが難点だ。

長時間待機が前提なら使用する価値があるが、その際には防水の靴と、風が強い時に腰の部分に縛るベルト（ヒモ）を用意しておくのが基本。

